

相田みつをの作品に触れて

2005.05.02

桜の咲く季節になり、長かったインフルエンザの流行もようやく終わりを告げたようです。今年は、新学期が始まるころにA型の流行が重なって、3度目の流行の波が押し寄せた保育園や幼稚園が多かったことと思います。インフルエンザの重症度は比較的軽かったのが、今シーズンの特徴でした。来年はどうなるでしょう。でも、予防が一番ですね。

4月22日から東京で小児科学会があって、開業してから初めて参加しました。子どもたちと毎日会うのもとっても勉強になりますが、新しい知識を吸収して、子どもたちに還元するのも大切な仕事です。勉強してきたことはおいおい出すことにして、今回は学会の会場のすぐ横にあった、「相田みつを美術館」。ここには以前からずっと行きたくて作品に直接触れてみたいと思っていた場所でした。ほんとに短い言葉の中に、子育てや人として生きていくうえで支えになる言葉がたくさんあふれています。好きなことばはたくさんありますが、その中でも一番心に残ったのがこれです。

「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」

間近で書を見ると、その字体や間の使い方一つ一つに感激を覚えます。外来で診てきた子どもたちが、歩くようになった、しゃべれるようになった、それもまた幸せ。「きょうねえ、クンはねえ、ようちえんでねえ、いっばいたのしかった」ことば足らずだった子どもが、一生懸命伝えられるようになった姿に接するのも幸せ。診察の中で出会う、子どもたちの育ち。出会うたびにわくわくする喜びは、小児科だけに与えられた特権かもしれません。そんな小さな変化も大きな幸せとして感じている自分の気持ちを保護者の方に伝えるのも、小児科医としての役目なのかなと感じていましたが、この書を正面から見つめて、さらにその気持ちを強くしました。

9日まで札幌の丸井今井で「相田みつを展」が開催されています。札幌に行かれる方はぜひお立ち寄りください。函館でも実現できればいいですね。